栃幼時報

題字／栃木県知事　福田富一 氏

第122号

平成27年9月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会
〒320-0033 宇都宮市本町12-11栃木会館2階
☎028(622)2821 FAX 028(622)2816
●編集人／宇南山 照元　●発行人／石嶋　勇
■栃幼連ホームページ http://www.youchien.or.jp

第62回 栃木県幼稚園教育研究大会

今年で六十二回目を数える県教研大会。七月三十日（木）から三十一日（金）にかけて栃木県総合文化センターならびに宇都宮市内各会場において開催されたが、厳しい暑さの中にもかかわらず県内各地から百七十七園、千三百六十名の先生方が参加し有意義な研究・研修が繰り広げられた。

第一日目は式典と講演と公演会、第二日目は十七の分科会に分かれて研修した。

開会式

あいさつ（要約）

栃幼連理事長　**石嶋　勇**

日頃から教育・保育の現場で奮闘されている先生方心から感謝を申し上げます。

平成二十七年度より「子ども・子育て新制度がスタートし、幼児教育が変わりゆく中、認定こども園に移行していく幼稚園も増えてきましたが、まだまだ先が見えない制度と感じております。各園それぞれの選択肢がありますが、連合会としては、加盟園の悩みを共有し、それぞれが選ばれた道についても団体として振興活動を進めていく所存です。また、政府の施策としても、幼児教育の無償化が議論されております。全日私幼連も着実に進むよう働きかけていきたいと考えておりますので、会員の皆様のさらなるご支援ご協力をお願い申し上げます。

知事祝辞（要約）

栃木県知事　**福田　富一**

まず、教育功労受彰者・永年勤続表彰を受彰された方々にお祝いを申し上げます。

（中略…）全国知事会で人口減少社会や少子化社会をどう克服していくかを議論しました。子ども・子育て支援新制度がスタートする中で栃木県は「子ども子育て支援プラン」を策定しました。次世代の子ども達を社会全体で支えていく取り組みを強化していくが、この中核的な役割を担っていくのが県内の幼稚園・認定こども園の先生方と認識しています。県も社会的使命を認識し幼児教育の振興や子育て支援を充実していきたいのでさらなるご協力をお願いいたします。

◎来賓
県知事福田富一様、県議会元議長三森文徳様、県教育委員会教育長古澤利通様、県幼児教育センター長森田浩子様、県保健福祉部こども政策課長小竹欣男様、同子ども・子育て支援班長横田公宏様、同主事根本裕子様、宇都宮市子ども部長川中子武保様

御礼

県大会全体会にてご依頼差し上げました「福島県私立幼稚園連合会」への義捐金に多くの皆様からご協力いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

総額 104,822円

講演会

「基本的生活習慣と親子の愛着関係が子どもの将来を決める」
講師：東北大学加齢医学研究所
所長　**川島 隆太** 氏

公演会

「ミツル＆りょうた コンサート
～楽しいうたと体操で、みんな笑顔～」
出演：**ミツル＆りょうた**

表彰

受賞おめでとうございます

●栃幼連 幼稚園教育功労者表彰

幼稚園教育振興功労者（敬称略）
吉羽　徹（高ノ台幼稚園）
福本　光夫（西那須野幼稚園）
幼稚園教育研究功労者（敬称略）
前田　和子（認定こども園友愛幼稚園）
栗田　英子（認定こども園黒羽幼稚園）

●栃幼連 永年勤続表彰

五十年表彰 二名
四十年表彰 十名
三十年表彰 五名
二十年表彰 二十三名
十年表彰 五十六名

第62回 栃木県幼稚園教育研究大会 2日目

21世紀をになっていく子どもたちが、瞳きらめく数々の体験を通じて、豊かな心を育み、生きる力の基礎を培っていけるよう、2日目は、17の分科会に分かれて研究・研修にあたった。
各分科会の話題提起者と会場は下記のとおり。

保育者のメンタルヘルスについて（60名）

助言者　浪間　　亮（株式会社ヒューマンリスペクト・インストラクター）
コーディネーター　栗田　英子（認定こども園黒羽幼稚園・園長）

参加者の声
マインドマップで心のバケツを満たして「ありがとう」を意識しながら、少し頑張ればできる目標を持ち続けたいと思った。

3分科会

0・1・2歳児の発達と保育 ～発達に即した環境構成について考える～（58名）

助言者　迫田　圭子（社会福祉法人あすみ福祉会茶々保育園・理事兼統括園長）
　　海沼　和代（社会福祉法人あすみ福祉会茶々保育園・園長）
コーディネーター　山﨑　英明（釜井台幼稚園・副園長）

参加者の声
0～2歳児の関わり方、発達を促す環境構成の大切さを学んだ。

4分科会

協同的なあそびと学び（75名）

助言者　宮里　暁美（十文字学園女子大学・教授）
コーディネーター　大久保智子（やすづか幼稚園・副園長）

参加者の声
今、子ども達に何が育っているか、何を育てたいかを考えながら、個々の関わりを深められる保育を心掛けたい。

5分科会

満3歳児保育の計画と工夫（73名）

助言者　守　　巧（東京家政大学・講師）
コーディネーター　田名網優子（明星幼稚園・教諭）

参加者の声
2歳児の特性がよくわかり、とても勉強になった。（守先生のお話が現場での経験を踏まえていてわかりやすかった。）

6分科会

特別支援教育における関係機関との連携と個別の指導計画・支援計画（58名）

助言者　秋場美智子（元栃木県発達障害者支援センター・臨床心理士）
コーディネーター　岡本　純世（認定こども園すみれ幼稚園・園長）

参加者の声
支援児がいることをマイナスに考えずに、子どもや自分自身が成長できる場だと認識して保育をしていきたい。

7分科会

●保育内容研究部門

分科会	話題提起者	会　場
1	近澤　美奈（認定こども園市貝たいよう幼稚園・教諭） 柳澤　未希（高ノ台幼稚園・教諭）	県総合文化センター
2	小林麻衣子（愛泉幼稚園・教諭） 藤間　亮太（法得幼稚園・教諭）	県総合文化センター
3	阿見　聖美（すぎのこ幼稚園認定こども園・教諭） 小池　美香（聖家幼稚園・教諭）	二荒山会館
4	大高　悠佳（さくら認定こども園さくら幼稚園・学年主任） 岡村日出子（認定しらゆりこども園・施設長）	コンセーレ
5	島田麻理恵（岩舟幼稚園・教諭） 日向野智代（都賀幼稚園・教諭）	コンセーレ
6	渡辺　純子（認定こども園育成館幼稚園・保育教諭） 小澤　直美（明星幼稚園・教諭）	二荒山会館
7	青木　律子（矢板市教育委員会・副主幹兼指導主事） 小池　栄子（釜井台幼稚園・教頭）	パルティ
8	田﨑　容子（平出むつみ幼稚園・園長） 池田　啓子（城山中央小学校・教務主任）	ホテルニューイタヤ
9	石井　亜希（足利さくら幼稚園・教諭） 須永　黎子（足利しらゆり幼稚園・副園長）	県総合文化センター
10	〔パネラー〕 岩渕千鶴子（宇都宮大学教育学部附属幼稚園・園内教頭） 坂本　修子（宇都宮大学教育学部附属幼稚園・研究主任） 柴山　洋子（呑竜幼稚園・教諭）	コンセーレ

●講座部門

分科会	会　場
11	二荒山会館
12	コンセーレ
13	ホテルニューイタヤ
14	県総合文化センター
15	ニューみくら

●免許更新、新採研

分科会	会　場
16	作新学院幼稚園
17	栃木県総合教育センター

子どもたちのやさしさや思いやりの育ち（82名）

助言者　日吉佳代子（宇都宮共和大学・教授）
コーディネーター　加藤みどり（真岡さくら幼稚園・園長）

参加者の声
どのような時、やさしさや思いやりが育つのか、思いやりが育つためにはどんな援助が必要か学ぶことができた。

1分科会

心が動いている時・こころの成長を感じた時（53名）

助言者　市川　　舞（宇都宮共和大学・講師）
コーディネーター　大中　清見（法得幼稚園・園長）

参加者の声
子どもの自我の芽生えや葛藤を見のがさずその子一人一人に望ましい対応や理解を深めることが大切であると学んだ。分かろうとすることは出来るので援助（見守ったり寄り添ったり介入のタイミングを考えたり）を見直して保育に活かしたい。

2分科会

「健康」領域に位置づく食育について 食物アレルギーを含めて考える（69名）

助言者　川田　容子（管理栄養士・佐野短期大学・非常勤講師）
コーディネーター　中川　文（清滝寺幼稚園・主任）

参加者の声
食育とは、食に関しての事だけでなく5領域がかかわっており、アレルギーの対応も全職員で共通理解を持つようにしていきたいと思った。

13分科会

認定こども園の「総合施設」機能 充実させ地域から必要とされる園作り（56名）

助言者　吉田　正幸（株式会社保育システム研究所・代表）
コーディネーター　中山　昌樹（認定こども園あかみ幼稚園・園長）

参加者の声
現代から未来にむけて子どもが減少する中で自園がどういう方向性をもって進んでいくのか考える時間になりました。

14分科会

幼児期の運動あそび！（97名）

助言者　河田　隆（宇都宮共和大学・教授）
コーディネーター　上野　和彦（にのみや認定こども園・園長）

参加者の声
子どもたちに応じた環境や楽しくできる促しの配慮と、幼児期の運動の大切さを学んだ。

15分科会

免許状更新講習（57名）

助言者　小林　研介（呑竜幼稚園・園長）
コーディネーター　山荷フサ子（作新学院幼稚園・副園長）

16分科会

新規採用幼稚園教諭研修（242名）

講話：県総務部人権教育室 指導主事・幼児教育センター 指導主事
演習：大出　廣志（みずほ幼稚園）　田崎由里恵（中鶴田幼稚園）
佐々木桐子（萌丘幼稚園）　人見　将之（足利さくら幼稚園）
館野　富美（大平みなみ幼稚園）　常川　幸子（薬師寺幼稚園）
髙村　恒子（認定こども園仁神堂幼稚園）　渡辺佳緒里（今市中央幼稚園）
鈴木麻由美（氏家幼稚園）　高野　直子（ひかり幼稚園）

（詳細はP.7）

17分科会

幼小の連携と幼稚園教育のあり方（74名）

助言者　木下　光二（鳴門教育大学・大学院教授）
コーディネーター　五十嵐市郎（宇都宮大学教育学部附属幼稚園・副園長）

参加者の声
どのような連携をすればよいのか分かり、連携の重要性を再認識した。（連携の現状・内容を含む）

8分科会

預かり保育・再考（33名）

助言者　木村　壽子（足利短期大学・教授）
コーディネーター　井上　智賀（旭幼稚園・園長）

参加者の声
預かり保育は子育て支援の一環であり、異年齢交流による学びを大切にしていきたい。

9分科会

「公開保育」研究 ～楽しく・意義ある公開保育を行うために～（32名）

助言者　岡　健（大妻女子大学・教授）
コーディネーター　大嶋　裕（今市中央幼稚園・副園長）

参加者の声
日頃の保育を充実させる重要性と、公開保育のメリットがわかった。また、分科会で行ったワークがとても為になった。

10分科会

特別支援教育 （気になる幼児の理解と支援）（97名）

助言者　上原　芳枝（特定非営利活動法人発達支援機関リソースセンターone・代表理事）
コーディネーター　斎藤　佳子（認定こども園しずわでら幼稚園・園長）

参加者の声
その子が今何を求めているのかを理解し、信頼関係を築いていく大切さを改めて学んだ。

11分科会

個を伸ばす絵画指導・造形指導 （教材の選び方・声のかけ方等）（91名）

助言者　鮫島　良一（鶴見大学短期大学部・講師）
コーディネーター　今井　政範（認定こども園さくらが丘・理事長）

参加者の声
「仕立て」「見立て」「製作」「制作」の違いに目からウロコだった。指導ではない声掛けの大切さを改めて感じた。

12分科会

研修会だより

青年部研修会

期日　平成二十七年六月二十九日（月）
会場　ホテルニューイタヤ
参加　十九名
講師　**八田 哲夫** 氏
（日本経営教育研究所　取締役）

ひとロメモ

八田先生の講演は「新時代型人財育成論・リーダーシップメソッド」のテーマで行った。

私立園にとって最も大切なことは評判であり、評判が満足を与え口コミを作るというサイクルの元にある。つまり、良い評判をどう作っていくかということが重要である。また、良い評判は亀のように進むし、悪い評判は一瞬で一人歩きする。

評判はどう作るか。それは次の四点。シンプルで見える結果がでている。他園との圧倒的な差がある。差を作り出す人材（人財）。人が作り出す雰囲気や園風。これらで評判は出来ていく。

人材育成とは、明確なビジョンのもとに行われる。五年後十年後にどうなっているか、どうなりたいか。それを職員に伝えているか。また、ビジョンは見える結果でしか伝わらない。違いを出していくこと。どう「見える化」していくか。

あの園にいったらこうなった、と「見える化」していくか。

他にも、リーダーシップ論、人材育成についてなど、非常に内容も濃く、二時間の研修にもかかわらず短時間に感じられた。参加者は得るものも多かったであろう。

設置者・園長経営研修会

期日　平成二十七年六月十五日（月）
会場　二荒山会館（鶴・亀の間）
参加　百四十名
内容　「子ども・子育て支援新制度について」
講師　栃木県　保健福祉部
こども政策課　副主幹　**大根田 敦** 氏
係　長　**野中 延寿** 氏

ひとロメモ

（はじめに）

今年度から正式に「こども政策課」が窓口になったが、「文書学事課」からの一部異動もあり、こども政策課としてもスムーズな対応ができるよう考えているが、各園でもぜひご協力をとの話があった。

特に今後は、よりメールでのやり取りが増え、文書のやり取りは極力抑えることになるとの話があった。

(1)子ども・子育て支援新制度への移行に伴う必要な手続きについて

※既にこの四月から新制度による対応が始まっているが、まだ安定した状況になっていないことや、まだまだ手続きが煩雑なことで、該当の園も対応に苦慮しているところだが、費用等の計算も落ち着いてくる時期のため、これからは安定してくるだろうとのこと。

※今後新制度への移行を検討している園は昨年度より各種の締め切り等が早くなるため、注意が必要！

・プレ申請も本申請も早い予定

【注】・宇都宮市と他市町での動き確認
・幼稚園型認定こども園移行予定の場合、認可外保育施設の状況によっては、認可定員等の計算し直しが必要
・会計処理項目の確認が必要

(2)その他の事項について
①学校法人会計基準の一部改正
・平成二十八年予算段階で関わる
②保育士等資格取得支援事業
③幼稚園耐震化促進事業の補助制度
・安心こども基金と今後の交付金の在り方について追加説明
④その他障がい児保育関わりについて

(3)全体に対する質疑
・交付金の点　・補助金の点
・非課税の部分　・入札関連

※新制度そのものも分からない部分も多く、現場も混乱している段階のため、新制度移行の園も従来の私学の園も、より情報交換を重ねて、今後を見定めていく必要がある。

(4)追加連絡
・振興財団からの報告と今後について

金子耀誉理事長

【内容】公益法人化の確認、退職金、資金運用、自助努力等

※難しい言葉が並んだが、新制度問題とあいまって、忘れてはならない点である。

平成二七年度 第一回保育テクニカル講座

期日　平成二十七年六月十八日（木）
会場　コンセール（大ホール）
参加　百三十六名
内容　「保育に活かす人形劇表現活動」
講師　佐野短期大学非常勤講師
加藤 美智子 氏

ひとロメモ

人形劇「アトリエビッキ」を主催、また演劇集団でも活躍されている加藤美智子先生のご指導のもと、参加者全員が実際に、ウサギ・キツネ・パンダの軍手人形を製作することから始まった。縫い方や細かい部分の取り付け方法など、一つ一つ丁寧にご指導くださり、裁縫が苦手な受講者も戸惑うことなく楽しみながら製作することができた。

軍手人形の持ち方や傾け方、手の動かし方など、動きの基本を教えていただき、参加者同士で出来上がった軍手人形を使って、挨拶や会話を実際に演じてみた。会場内が笑顔と笑い声でいっぱいになった。

最後は、加藤先生が人形劇を披露してくださり、間を繋ぐときや次の活動に移るときなど、明日からの保育の中に取り入れることができる技術を、直に見ることができ、あっという間の二時間だった。

教頭・主任研修

期日　平成二十七年六月二十五日
会場　東京学芸大学附属幼稚園（小金井園舎）視察研修
参加　三十一名
テーマ　「記録を保育に活かす」

ひとロメモ

今回の研修は移動中バスの中で幼稚園の記録ビデオを見

て行く所からスタートした。

午前中は、各クラスの保育や保育室の環境などを保育参観・施設見学となった。各学年に会わせて園庭が分かれており、子ども主体の遊びが展開されている。

午後は、東京学芸大学附属幼稚園で実際に行っている記録について副園長田代幸代先生の講話をいただく。記録をまとめていくにあたって、様々な記録の取り方があり、メリット、デメリットがある。日案では個々を成長とらえるもの、遊びを中心に記録をとるものなど様々。週案・月案の記録の仕方など。その園にあった記録を残していくことが大切。記録を保育に活かすためには、目的意識を持つことが大切で、その子の成長へもつながり、保育者自身の資質向上へもつながっていくと。参加者一同実のある研修となった。

「〇・一・二歳児研修」

期日　平成二十七年七月八日(水)
会場　二荒山会館
参加　百十三名
テーマ
「ていねいなまなざし」でみる乳幼児保育
講師
東京家政大学ナースリールーム
主任　**井桁容子**氏

ひとロメモ
〇・一・二歳児の保育の様子の写真を見ながら、そこにある豊かな育ちをていねいに読み解き、寄り添う心もちと援助する手立てを学んだ講習であった。園の形が変わりつつある現代、三歳児以下の子どもたちを見直す必要がある、というところから始まり、井桁先生の話は明確で聞いているとその映像が目に浮かび、あっという間の二時間半であった。

今の保護者世代は、みんなと同じでなければいけない同調圧力の環境の中で育ち、周囲から見て「いい親」であろうとする。そして、自分の子にも同じように躾てしまうのである。「子どもにとって、泣くことは表現」自由な表現を読み取らなければ学びにつながらない。泣いている子を抱っこするだけでは、ただの子守である。泣いている理由を見分け、欲求を満たしてあげることが大切なのである。乳児は体験こそ足りないが大人と同じくらい感性がある。ことばにできない学びを日々、体感している。例えば、履けたことが嬉しくて靴下を三枚履いてきた子、この子はこの体験から何を学ぶだろうか。靴下を三枚履くと「靴を履くことができない」だから、「長靴を履いてきた」園で生活をするにも三枚だと「すべる」「動きにくい」しかも「脱ぐことが面倒」しかし、寒い時期には靴下を三枚履くと「あったかい」ことを知ることができた。この子は自ら体験し、これらのことを考え、気づくことができたのだ。体験はその子の生きていく力になるのだ。保育教諭は、子どもたちの自発性、知的好奇心をとめてはいけないのである。体験は身になり、問題解決力、障害を乗り越える力がつく。

井桁先生は、私たちは子どもの「知りたい・見たい」を引き出し、子どものありのままの表現を認める役目、そして一人ひとりの魅力を見極め、リボンをつけてお返しするのであると教えてくれた。

第一回保育セオリー講座

期日　平成二十七年七月十日(金)
会場　コンセーレ(大ホール)
参加　百三十九名
内容
『新制度に向けて　心と言葉を育む保育』
～子どもの心とことばを育てる保育者のかかわり～
講師
公益財団法人幼少年教育研究所
斎藤一三子氏

ひとロメモ
子ども子育て支援新制度の導入に伴い、幼稚園でも、未満児への教育を見直す必要がある。講義内容は、主に乳幼児への関わり方を中心に、童歌や手遊びを行いながら、とても楽しい雰囲気で話を聞くことが出来た。

言葉を育む上で大切なことは、「遊びながら教育する」ことであると改めて実感した。手遊びでは子どもの発想を取り入れながら行うことで様々な会話が飛び交い、言葉が豊かになる。また、保育者が愛情を持って丁寧に関わることが心を育んでいく。他にも、言葉の少ない子への対応や全国で主流になっているハイタッチを取り入れた保育など、すぐに保育で生かせる内容のものばかりで、有意義な講習となった。

就職説明会

期日　平成二十七年七月十二日(日)
会場　マロニエプラザ大展示場
参加状況
参加園数　百四十七園
参加者数　四百六十名
参加者内訳
県内学生　三百七十五名
県外学生　八十五名
一般　一名

ひとロメモ
十九回目となる栃幼連主催の就職説明会が、今年もマロニエプラザで開催された。群馬県就職説明会と同一日程ということもあってか参加者は昨年より若干少なかったが、参加した学生たちは、それぞれの希望する園で熱心に説明を受けていた。

近年ミスマッチによる早期退職が問題となっており、その対策として、八月三十一日までは学生が自由に他園への応募・選考を受けることが出来るよう取り決めを行った。そのような状況の下で行われた今年の就職説明会であったが、幼稚園にとっても、学生にとっても非常に有意義な時間を持てていたようだ。

スクールバス安全運転研修会

期日　平成二十七年七月三十日（木）
会場　一荒山会館（鶴・亀の間）
講師　宇都宮中央警察署　交通総務課企画係
係長　**斎藤　大**氏
栃木交通バス㈱運行部
運行部長　**石﨑　隆英**氏

ひとくちメモ
・交通死亡事故の加害者と被害者の違い
加害者：帰るところある
被害者：二度と帰ってこない
・幼稚園バスの年間事故数
二〇〇件（内、園児の負傷者事故は年間九〇件）
・幼稚園バス事故の特徴
①バス停には園児の弟や妹が待っている
②二歳以下の子ども歩き始めたばかりの子どもがいる
③発車時に園児でない子どもをひいてしまう
・幼稚園バス事故の対策
①十分な確認
②ミラーに頼らず直接目視
③不安を感じたら降車確認
・もし事故が発生してしまったら
①続発事故の防止
②負傷者の救護
③警察への通報
④事故状況を把握しておく
⑤相手側の氏名・住所・電話番号・車輌ナンバーを確認をする
⑥園に報告する

全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修茨城大会

期日　平成二十七年八月四日（火）、五日（水）
会場　つくば国際会議場他
大会テーマ
子どもの『今』に寄り添い、子どもと『未来』をきずく
～大事なものは変わらない～

ひとくちメモ
財団法人私学研修福祉会の主催により、全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修茨城大会が開催された。この研修会には茨城、埼玉、千葉、群馬、神奈川、新潟、山梨、栃木から合計千四百二十名の参加があった。

一日目開会式では、全日本私立幼稚園連合会香川敬会長、関東地区会原徳明会長があいさつし、歓迎の辞茨城県私立幼稚園・認定こども園連合会橋本幸雄会長、祝辞を茨城県知事橋本昌様他から祝辞があった。感謝状送呈では前年開催県・栃幼連石嶋理事長が授与された。

基調講演『子どもの社会力を育てよう』講師門脇厚司氏、アトラクション大洗高校マーチングバンドが行われた。

二日目は会議場周辺、オークラフロンティアホテルつくば他を会場に、十六のフォーラムが実施され、実のある研鑽の場となった。

新規採用幼稚園教諭宿泊研修報告

にのみや認定こども園　**上野和彦**

八月十七日（月）～十九日（水）、栃木県立とちぎ海浜自然の家にて、県内幼稚園新規採用教諭宿泊研修が行われた。昨年に引き続き、「幼稚園の保育者にふさわしい①明朗で決まりよく行動する生活体験、②豊かな自然体験や、③積極的に社会人としての体験を積むと共に、幼児教育への理解を深める。」という目的のもと、寺尾実行委員長をはじめとする栃木県幼稚園連合会青年部委員が実行委員となって準備した様々な内容が盛り込まれた三日間だった。

まず、生活や活動をスムーズにするため、グループの関係性を深めるグループワークトレーニングでアイスブレイクし研修が始まっていった。二日目は全体活動で新任教諭として悩んでいたり、苦しんでいたり、大変な思いをしているのは、それぞれ置かれた立場は違えど、皆おなじなのだということに気づき更に仲間意識・団結力を高めた。そして、選択活動に分かれ即実践に活かせる歌や制作、ゲームなど様々な遊びを学び、夕食後は両日とも任意活動に希望で参加し、リラックスしながら学んで気分転換ができる時間を過ごした。また、決められた活動時間以外を有効に使い、最終日に発表する手遊びを考え作り上げることで、交流や話し合いが進み、協力や思いやりの気持ちが育つ機会となっていた。

宿泊研修で学べることはとても多く、研修生、実行委員共に、貴重で充実した三日間になっただろう。

幼児教育センターだより

新規採用幼稚園教諭研修　第三日
（幼稚園教育研究大会第17分科会）

七月三十一日に、新規採用幼稚園教諭研修第三日を開催しました。

午前中は、県教育委員会総務課人権教育室の青柳恵美指導主事より「一人一人を大切にする教育」を題に人権講話がありました。先入観や固定観念にとらわれて子どもに接していないかチェックする良い機会となりました。

続いて、センター指導主事より「幼児理解」をテーマに講話及び映像資料を通した演習を行いました。

午後は、十一グループに分かれて、各地区から推薦された指導助言者のもと、演習を行いました。午前中の保育の映像視聴を基に、視線や表情に表れる幼児の思いや、年齢による発達に応じた教師の援助に視点を当て、協議しました。

受講者からは、「『幼児理解』・『発達の課題』・『具体的な援助』という三つのステップを具体的に知ることができた」「忙しくてつい指示的になるが、少しでも冷静になる時間を作って、一人一人の本当の気持ちを感じとる努力をしたい」などの感想がありました。グループ協議で自分になかった意見に出会えたり、自分の意見に共感してもらえたりする中で、幼児理解への考えを深められました。

指導助言者からは、豊かな御経験から、多様な助言をいただきました。幼稚園教諭のすばらしさを再認識し、明日からの励みになったとの声が多く聞かれました。

教育課程研究集会（幼児教育）第一日

六月十日に教育課程研究集会（幼児教育）の第一日を開催しました。この研修は、「幼稚園教育理解推進事業」（文部科学省主催）の都道府県協議会に該当するもので、幼児期の学校教育の質の保証を目的としたものです。文部科学省から示された今年度の協議主題は「カリキュラム・マネジメントの適切な実施」と「特別支援教育」です。

午前中に、文京区立第一幼稚園の桶田ゆかり園長より、協議主題の解説がありました。教育要領の理念に立ち返り、理念を実現するための教育課程の編成、実施、評価、改善について解説していただきました。また、幼稚園教育における今日的な課題である「特別支援教育」についても、園全体で計画的、組織的に取り組む意義や方法について、自身の経験を踏まえて、解説していただきました。

午後は、協議主題ごとの分科会で、演習やグループ協議を通して、さらに主題の理解を深めました。そして、一人一人が自分の園の現状や課題を振り返り、研究の方向性を決めました。

第二日の八月二十八日には、それぞれの研究を持ち寄り協議主題に迫りました。

園内研修、支援します♡

当センターでは、保育・教育アドバイザー事業の一環として、幼稚園やこども園等における園内研修を支援しています。

園の研究テーマや喫緊の課題等の解決に向けて、多様な研修の手法を紹介したり、最新の情報を提供したりしながら、教職員の人材育成、教育・保育の質の向上を図ります。

テーマは、もちろん、開始時刻や所要時間等、各園が効果的に取り組めるよう相談に応じます。

今年度の実施例を紹介します。

①発達と学びをつなぐ要録の作成
　足利しらゆり幼稚園
②幼児期の表現（絵画）活動
　さくら認定こども園さくらが丘幼稚園
③幼稚園における特別支援教育
　認定こども園仁神堂幼稚園
④協同的な学びが生まれる保育とは
　作新学院幼稚園

まずは、お電話ください。
☎028（665）7215

これからの研修

●スキルアップセミナー（Ⅰ）
《明日の保育が変わる記録の在り方》

十月十六日（金）

講話「専門性を高めるための記録の在り方」
千葉大学教育学部
准教授　砂上　史子　先生
講話・演習
「記録の取り方と生かし方」

●スキルアップセミナー（Ⅱ）
《発達と学びをつなぐ要録の作成と活用》

二月四日（木）

講話「要録の意義と役割」
明治学院大学
特命教授　赤石　元子　先生
講話・演習
「発達と学びをつなぐ要録の作成」

★幼児教育センター研修案内よりお申し込みください！

こども政策課だより

平成二十七年度幼稚園財務関係調査及び幼保連携型認定こども園指導監査の実施について

七月から十一月までの間、標記調査等を幼稚園・幼保連携型認定こども園を対象に実施しています。調査内容は、次のとおりです。

・学校法人の管理運営状況
・幼稚園・認定こども園の管理運営状況
・会計処理状況　等

実施日時等の詳細については、調査対象となる幼稚園・認定こども園設置者宛てに通知しています。調査への御協力をお願いします。

また、今年度調査対象外の幼稚園・認定こども園においても日常業務の再点検を行い、適正な管理運営に努めていただくようお願いします。

なお、点検の結果、園則変更、園地・園舎変更、理事・監事就任届等が未提出の場合には、早急に提出願います。

各種提出書類について

●幼稚園運営費補助金交付申請書
・提出期限　十月下旬（予定）
・平成二十七年度幼稚園運営費補助金（一般補助分）の内定については、十月中旬を予定しています。交付申請書の提出に当たっては、別途通知する内定通知に基づき提出願います。

●幼稚園教材費等補助金交付申請書
・提出期限　十月下旬（予定）

●幼稚園運営費補助金及び幼稚園教材費等補助金（**特別補助分**）関係書類
一　特別支援教育
・提出書類
ア　対象園児就園状況調書
イ　対象園児担当・指導教職員に関する調書
ウ　対象園児である旨の判定調書
・提出期限　十月二十三日（金）
※ウについては、身障者手帳、特別児童扶養手当証書、療育手帳、専門医の診断書は、児童相談所の判定書のいずれかが必要となります。

また、学級担任以外の教職員から特別な教育支援を受けている幼児が補助対象園児となりますので、御留意願います。

二　子育てランド事業
・提出書類
ア　子育てランド事業実施計画書
イ　各事業における保護者等への案内通知（写）
・提出期限　十一月上旬（予定）

三　わんぱく保育推進事業
・提出書類
ア　わんぱく保育推進事業実施計画書
イ　預かり保育実施記録
ウ　保護者等への案内通知（写）
・提出期限　十一月中旬（予定）

※各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上提出願います。

平成二十七年十月～十二月までの事業予定

10月10日～10月24日	第22回　ピカピカの栃木県
10月15日	保育セオリー講座
10月16日	幼稚園教育振興の集い（佐野市）
10月16日	※スキルアップセミナーⅠ
10月26日～27日	第31回　全日私幼連　設置者・園長全国研修大会（岩手）
10月31日	公開保育研究会（宇大附属幼稚園）
11月4日	※5年目研修
11月5日～6日	全日私幼連　関東地区代表者協議会（千葉）
11月6日	※特別支援教育研修
11月10日	※10年経験者研修
11月11日	保育テクニカル講座
11月14日	とちぎ教育振興大会
11月18日	設置者・園長研修会
11月19日～20日	第55回　関東甲信越静地区造形教育研究大会
11月25日	※5年目研修
11月30日	0・1・2歳児研修
12月5日	資質向上選抜養成講座Ⅺ
12月16日	保育セオリー講座
12月21日	新規採用幼稚園教諭研修（集合研修）
	※は幼児教育センター事業

訃報

●那須塩原市
黒磯いずみ幼稚園認定こども園
理事長　磯　昭二　先生
平成二十七年六月二十五日　逝去
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

自園が認定こども園となって半年。園の教育方針に沿いながら、保護者の意識と職員の意欲をうまく調和させていくのが私の役割である、と日々感じている。

県内、全国、世界には様々な幼稚園や保育所、こども園、託児施設があり、機能も特色もそれぞれというが、それらの見識や興味を持つのは限られた専門職や経営者がほとんど。親は自分の生活圏内で、より便利に、評判がよく、より理想的に、より安く、長く、子どもを預けられる施設を探すのが実情。いくつか選択肢が与えられた場合、最終判断はそこで働く「人」との関係や、その園で子どもが出会う「人」に期待すること、なのかもしれない。

私たちの仕事のおもしろさと難しさは、未来の担い手となる「人」の育成と、環境となる「人」の養成と、地域の「人」とのつながりが絡み合っているところにある。

何園であろうと、私が生きると決めたこの場所で、様々な「人」が必要としてくれる現実があるから、やりがいと生きがいがあるのだろう、と、山に囲まれた田舎で自負している。

（篠原　真木子）